

欧米で開始、排出権取引

エム・ケイ・ニュース社代表 益永 研

昨年10月末、シカゴ環境先物取引所(CCFE)が、「Futures & Options EXPO」(シカゴで毎年開催される先物関係者中心のイベント)でデビューを飾りました。同取引所は、元シカゴ・マーカントイル取引所会長のジョン・サンドナー氏がCEO兼会長を務めるシカゴ天候取引所(CCX)の子会社で、11月9日、正式に米国商品先物取引委員会(CFTC)の認可を得て硫黄酸化物(SO₂)先物・オプション取引を上場、12月から取引を開始しました。

欧米で取引所が続々誕生

といっても、この時点では同取引所は無名。来場した先物関係者たちからは、親会社のCCXも含めて、「Who are you?」という質問が相次ぎました。なかには、「排出権取引って何?」と聞く先物関係者までいて、「排出権取引」に対する一般的な認知度は、米国でも低い——と思わせられました。しかし、それからわずか数カ月、「排出権取引」は欧米の主要経済紙をにぎわすトピックスの1つになりつつあります。というのも、米国でのCCFE取引開始に続き、今年1月には、ヨーロッパでも同じくCCXの子会社であるヨーロッパ天候取引所(ECX、本社・アムステルダム)を含む6つの排出権取引所が誕生したためです。

火がついた二酸化炭素排出権取引

「火がつく二酸化炭素排出権取引」と題された今年1月13日付フィナンシャル・タイムズ紙によれば、1997年の京都議定書以来、ヨーロッパにおけるOTCでの排出権取引量は合計で、年間およそ170億ユーロ。「排出業者」として登録された発電所やパルプ製造工場などの企業は1万2,000社に上ります。

このうち、今後、先物・オプション市場での取引が予想される企業は5~10%ほどですが、取引所にはこれらエネルギー関係者など従来の「当業者」ばかりでなく、投資銀行やファンドなども数多く会員として参入すると考えられています。

実際に、2003年の米国における硫黄酸化物排出権のOTC市場での取引を見ると、トレーダーの多くは、PPL、PSEG、APSなどの電力関係者、あるいは「排出権ブローカー」と呼ばれる人々ですが、一方で、モルガン・スタンレーやキャンター・フィッツジェラルドといった金融関係者による取引もまた大きな数字になっています(次頁のグラフ参照)。

CCXのシニア・バイス・プレジデント、ウィリアム・ボイク氏も、現場サイドからこう語っています。「発電所のオーナーなどは世代交代を経て、ヘッジツールとしての金融先物市場にも深い知識を持つようになってい

る。また、ヘッジファンドも、他の運用資産と相関関係のない新しいアセットクラスを探しており、排出権取引に関心を深めている。彼らはどちらも今後、排出権先物市場の中核トレーダーになるだろう」

先物・オプション取引も

冒頭で紹介したEXPOのブースでは「Who are you?」を繰り返されて苦笑いしていたボイク氏ですが、取引開始から約2カ月がたち、「問い合わせは増えている。実際の取引に結びつくには時間がかかるかもしれないが、われわれには立ち上げから参加しているメンバーがいるから問題はない」とも語ってくれました。

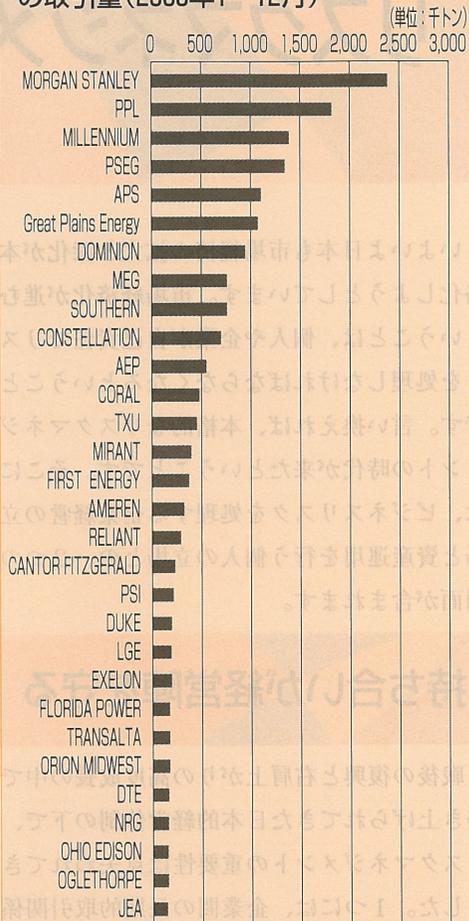
こうした米国での市場参加者の動きを反映してかどうか、ヨーロッパの6取引所も、現在はフォワード(先渡し)取引だけですが、「ヨーロッパ連合内での登録が終了する2月末には先物・オプション取引も始める」(ECX)としています。

各取引所が提示している取引所手数料は片道0.2~0.3ユーロセント。年間のスポット取引量予想は全体で2億2千万取引。フォワードやスポットだけの収入ではおよそ50万ユーロにしかありません。しかし、排出権の先物・オプション取引が今後、こうした金融関係者たちの参入によって、通貨や株価指数などと同様に、国際的なマネー市場に成長していけば、取引所としても何倍もの収入が期待できるビジネスになるでしょう。

「無体物の時代」が来る?

米国の先物業界の中には70年代から90年代に全盛をきわめた通貨や金利などの金融先物、

大手硫黄酸化物(SO₂)排出権取引業者の取引量(2003年1~12月)



出典：USEPA Allowance Tracking System

国債、株価指数といった証券先物の時代から、今後は排出権取引に代表される「無体物」の先物時代がやってくると指摘する関係者もいます。当然の米国が京都議定書に署名していないにもかかわらず、先物取引だけは先行して動いています。一方、ヨーロッパはすでに官民挙げて排出権取引に取り組んでおり、先物・オプション取引まで進んでいます。今後、どの取引所が勝ち残るのか? 欧米先物関係者にとっては当分の間、気の揉める日々が続くそうです。